

経済学部：経済・経営学科（現代経済システムコースおよび国際ビジネスコース）

【卒業要件：128単位】

1. 全学教育科目は、卒業要件として（イ）～（ホ）に従い、28単位以上を修得する。

（イ）教養教育科目のコア教養科目は、以下の条件に従い、8単位以上を修得する。

コア教養科目の「人間と文化」、「文芸と人間」、「歴史の認識」、「異文化の理解」および教育学部の専攻教育科目（入門科目）「教育学概説」、「教育心理学概説」の中から2科目4単位以上、法学部の専攻教育科目（入門科目）「法学入門」、「政治学入門」の中から1科目2単位以上を修得する。

ただし、教育学部・法学部の専攻教育科目（入門科目）のうち、コア教養科目として認められるのは4単位までである。

さらに、コア教養科目の「地球と生命」、「数理と情報」、「物質の世界」の中から1科目2単位以上を修得する。

なお、コア教養科目の「医療と福祉」、「芸術とテクノロジー」については、1科目2単位に限り、コア教養科目のうちの不足する区分の単位とすることができる。

「現代の政治と法」、「現代の社会と経済」は卒業要件のいずれの単位にも含めることができない。

（ロ）言語文化科目Ⅰでは、第1外国語7単位以上、第2外国語5単位以上を修得する。

（ハ）健康・スポーツ科学科目Ⅰでは、「健康・スポーツ科学講義」、「健康・スポーツ科学実習」を修得する。

（ニ）基礎科学科目Ⅰでは、必修科目4単位を修得する。

（ホ）情報処理科目Ⅰでは、「情報処理基礎演習」を修得する。

2. 専攻教育科目では、卒業要件として低年次専攻教育科目を含めて80単位以上を修得する。

なお、外国語コミュニケーション科目のうち、専攻教育科目として10単位までを含めることができる。

3. 経済学部の卒業要件として、上記1および2の卒業要件の外に、総合選択履修方式により20単位以上を修得する。
なお、上記20単位のうち4単位以上は3年次以降で修得することが望ましい。

ただし、外国語コミュニケーション科目のうち、総合選択履修として認められるのは10単位までである。（専攻教育科目に含めた単位数を重複して含めることはできない。）

また、経済学部において開講する専攻教育科目のうち、総合選択履修として認められるのは10単位までである。

4. 履修登録単位数について

履修する授業科目の登録単位数の限度は、3年次までは一学期当たり全学教育科目と専攻教育科目合わせて20単位（通年科目は、学期毎に2単位として登録する。）まで、4年次以降については一学期当たり26単位までとする。

ただし、2年次終了までに72単位以上修得し、修得科目の4/5以上が成績「優」で、学部長が「特に成績優秀」と認めた者に対しては、登録単位数の制限を行わない。

なお、全学教育科目の健康・スポーツ科学科目Ⅰの授業科目「健康・スポーツ科学実習」は、一学期に履修できる授業科目の登録単位数制限20単位から除外する。

5. 進級及びコースへの配属について

3年次に開講される専攻教育科目（選択必修科目および選択科目）を履修するには、全学教育科目（卒業要件28単位）、低年次専攻教育科目及び専攻教育科目（基本科目）から2年次終了までに44単位以上を修得する。上記の条件を満たすまでは、専攻教育科目（選択必修科目および選択科目）を履修することができない。

ただし、他学部から経済学部へ転学部した学生に対しては、この条件は適用しない。

コース配属については、経済学部学生便覧の「コース振り分け」を参照すること。

